サハリン朝鮮人の戦後史

── 成點模氏の証言を中心に

金　　鎔　基

はじめに

第二次世界大戦の終了後，ソ連領となり日本人が引き上げた樺太（＝サハリン）には，約 4 万名の朝鮮人が置き去りにされた。1992 年に韓国への永住帰国が始まるまでの 50 年の間,第一世代の多くは帰郷の夢を果たせないまま亡くなった。近年，サハリン朝鮮人（＝韓人）の歴史や現状に関する研究は増えてきており，さまざまな角度から解明が進みつつある。本稿は 2009 年 9 月に韓国安山の故郷村及びサハリンを訪問して行われた聞き取り調査に依拠している。[1] この調査の目的の一つはオーラルヒストリのデータ構築にある。オーラルヒストリは文献資料の穴をうめる補助的手段としてだけでなく，普段は記録をあまり残さない側の声を拾い上げることによって，事象を複眼的に観察できるという意義がある。複数の方の証言のうち，ここでは成點模（ソン・ジョンモ：성 점모）氏の証言を重点的に紹介する。氏の経歴からして，サハリンの戦後史を体験した朝鮮人のなかでは，比較的豊富な情報に接しつつ事実を吟味できる立場にあった一人と思うからである。

韓国の在外同胞財団の集計によれば，海外居住のコリアン数は 2009 年現在，680 万人をこえ，中国，イスラエルなどと並び，在外同胞数が世界でもっとも多い国の一つとなっている。特に 250～300 万人と推定される旧ソ連圏や中国のコリアンは，両地域と韓国が国交を樹立した 1990 年代以降，突如とし

---

[1] この調査は，平成 21 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）「19～20 世紀北東アジア史のなかのサハリン・樺太」（研究代表：今西一）の助成をえて実施された。

て韓国人（私もふくめて）の視野に入ってきたという感じを覚える。それ以降，韓国内外で在外コリアン研究は一つ大きなブームになっている。また多くの調査や研究において，在外同胞のアイデンティティ，なかでも民族意識や文化，言語などの実態に強い関心が向けられてきた。

今回の聞き取りにおいても，アイデンティティは強く意識されている。ただ,アイデンティティ論をここで本格的に展開するにはまだ準備不足である。取りあえず，アマルティア・センの議論に学びつつ，以下の点に注意を払った。[2]

センは，人間は複雑で難解な社会的な生き物として複数のアイデンティティを合わせ持っているのが本来の姿であり，運命づけられた，選択の余地のない単一アイデンティティというのは幻想にすぎないとする。センの議論は，複数のアイデンティティの間に優先順位を決めるか，取捨選択する自由を擁護する。人々を単一基準のアイデンティティの枠内に押し込め，その自由を抑圧することは,集団感の抗争をあおるために悪用されうると警戒する。

これは血なまぐさい民族紛争などに限定される話ではない。例えば日本でも，永住外国人に地方選挙権を付与する法案に反対する政治家は,「選挙権ほしいなら帰化すればいい」と発言する。[3] 国政選挙権を必要とする国民と，地方選挙権を必要とする地域住民が必ずしも一致しない状況が，この一言で視野から隠されてしまう。石原東京都知事は，民主党がその法案を出したのは祖先への恩返しのためだともいった。民主党内に帰化した議員がいることを強調したかったのであろう。たとえ帰化して同じ国民であっても，もともとの国民と帰化人とはどこか立場が違うのだと。逆説的だが，国民という単一基準で割り切れないものもあることを，法案反対派の大物が自ら証言してい

---

[2] アマルティア・セン著，大門毅監修，東郷えりか訳『アイデンティティと暴力―運命は幻想である』勁草書房 2011 年。

[3] 例えば，野田首相が財務副大臣だった頃の発言。www.asahi.com 2010 年 1 月 30 日。小泉純一郎元首相も，2001 年自由民主党総裁選挙に出馬した際，同じ趣旨の発言をしている。『朝日新聞』2009 年 1 月 8 日。

る。

サハリン朝鮮人問題で一つ印象的なのは，50年もの間，冷戦の壁と冷酷な国際政治に翻弄されながらも，帰郷への情熱が冷めなかったこと，帰還運動のねばり強さである。サハリンの朝鮮人は，自らを韓人と称することにも現れているが，旧ソ連圏コリアンのなかでも特に韓国への親近感を表現したがる。とはいえ，一時は大勢が北朝鮮籍をとった。また「故郷に戻って死にたい」が口癖だった老人が，永住帰国してからは「サハリンに帰って息子の見守るなかで死にたい」と愚痴をこぼす。[4]

在外同胞財団の支援もあって，在外コリアンのアイデンティティを調べるため大量設問調査を行う研究の蓄積が進んでいる。しかし静態的調査に現れる結果はより慎重に読み解かれるべきである。アイデンティティというのは複数であり，個人の選択行為の積み重ねによって変化するものだからである。本稿では，アイデンティティの動態的変化を捉える概念枠として，選択の自由に対する抑圧，それに対する順応と反発，という構図を念頭におく。

成點模氏への聞き取りは二回にわたって行われた。初回は金鎔基と韓国語で，二回目は金鎔基，中山大将の二人と日本語で行われた。録音記録の文書化，日本語への翻訳とも金鎔基が行った。

聞き取り内容は，2－1～3－5までトピック別に分けて全文を掲載した。ただし掲載順番は実際聞き取った順番と大幅に変わっている。

またトピック別に，必要な場合，補足及びコメントをつけた。

---

[4] 安山故郷村の聞き取りで聞いた話。崔吉城『사할린：流刑과　棄民의 땅』민속원（『サハリン：流刑と棄民の地』ソウル，民俗院）2003年，の表紙にも同じ趣旨の事例が紹介されている。

１．棄民，国際情勢，帰還運動

１－１　終戦時の朝鮮人残留者数

1945 年の終戦時にサハリンには約 4 万人の朝鮮人がいた。その数をめぐっては約 1 万 5 千人，約 2 万人などの説もあり，まだ正確な解明には至っていない。しかし集計の根拠がもっとも確実なのは，1947 年にサハリン当局が朝鮮人居留民会を通じて行った人口調査で，4 万 3 千人とある。[5] ただ，ソ連は労働力不足を補うため北朝鮮と協定をむすび，1946 年 5 月から北朝鮮の労働者をサハリンに移入させている。[6] この北朝鮮労働者が前記の 4 万 3 千人に含まれている可能性に着目し，終戦時の残留者規模をかなり小さく見ようとする傾向も一部ある。[7] 北朝鮮労働者の出入りについては，近年，より詳細な事情が紹介されている。表 1 は，旧ソ連側の資料にもとづき北朝鮮労働者の

表 1　北朝鮮労働者のサハリン移入と減少

年度別	移入			減少		
	計	労働者	家族	計	労働者	家族
1946	7,523	7,523	－	6,595	6,595	－
1947	6,474	5,083	1,391	－	－	－
1948	11,888	8,105	3,783	5,406	4,113	1,293
1949	180	180	－	2,394	1,678	716
総計	26,065	20,891	5,174	14,396	12,386	2,009

出所：이재혁「러시아 사할린 한인 이주의 특성과 인구발달」（イ・ジェヒョク「ロシアのサハリンにおける韓人移住の特性と人口発達」『国土地理学会誌』第 44 巻 2 号，2010（181-198）から転載。

---

5 「한러 근현대사비사 34　사할린 한인(1)」（韓ロ近現代秘史　サハリンの韓人(1)）東亜日報 1993 年 4 月 20 日。

6 이재혁「러시아 사할린 한인 이주의 특성과 인구발달」（イ・ジェヒョク「ロシアのサハリンにおける韓人移住の特性と人口発達」『国土地理学会誌』第 44 巻 2 号，ソウル 2010 年（181-198）

7 新井佐和子『サハリンの韓国人はなぜ帰れなかったのか―帰還運動にかけたある夫婦の四十年』草思社 1998 年，104 頁。

移入数や減少数を示した最近の研究から転載している。1946 年にサハリンに入って出ていかなかった北朝鮮労働者の数は，同年の移入から減少を差し引いた 968 名である。1947 年には出ていった人がゼロなので，入った人が全員残っていることになる。両者の合計は 7,402 名。人口調査のあった 1947 年にサハリンにいる北朝鮮労働者数はこの 7,402 名を越えられない。それを前記 4 万 3 千人から差し引けば約 3 万 6 千名となる。確かに若干減るが， 4 万人説を大きく覆す結果にはなっていない。キム・ミンヨン（2000）の約 4 万名説，クージンの研究に出ている 35,400 人という数値ともほぼ一致する。[8]

１－２　日本の棄民と関係諸国の対応

終戦のとき朝鮮人は，朝鮮人が日本人より先に故郷に帰ることになると期待していたという証言を，今回の聞き取りではほぼ全員から聞いた。ソ連軍進駐によってサハリンに足止めされていた日本人約 30 万人は，ソ連側と交渉した日本政府の手配で 1946 年 12 月から 1949 年 7 月にかけて本土に引き上げた。しかし朝鮮人やその家族は引き揚げ対象から排除され，乗船を断られた。朝鮮人やロシア人と結婚した日本人女性も排除された。朝鮮の独立を約束したカイロ宣言を持ち出し，朝鮮人はもはや日本人ではないので日本政府に保護義務はないというのが，この棄民行為に対する日本政府の弁解であった。[9]

日本人の引き上げが行われている間，朝鮮人側からは GHQ に対して 3 回の働きかけがあったことが確認されている。[10] サハリンに家族を残し日本本

---

[8] 김민영「사할린 한인의 이주와 노동1939-1945」（サハリン韓人の移住と労働 1939－1945）『国際地域研究』第 4 巻 1 号，ソウル 2000 年 6 月。アナトーリ・T・クージン『沿海州・サハリン近い昔の話―翻弄された朝鮮人の歴史』凱風社 2000 年（前掲の崔吉城（2003）217 頁から再引用）。

[9] 大沼保昭『サハリン棄民―戦後責任の点景』中央公論社（中公新書 1082），1992 年。

[10] 角田房子『悲しみの島サハリン：戦後責任の背景』新潮社 1994 年。김성종「사할린 한인동포 귀환과 정착의 정책과제」(キム・ソンジョン「サハリン韓人同胞の帰還及び定着の政策課題」『韓国東北亜論叢』第 40 輯，ソウル 2006 年，200-201 頁)。

土で終戦を迎えた朝鮮人鉱夫らが，家族を連れ戻すため GHQ に出した請願（1945 年 12 月），ソウルの民間団体「サハリン韓国人早期帰還連盟」から GHQ への請願（1947 年 10 月）がある。二回の請願は GHQ を通してソ連側にも伝えられたが，ソ連側は返事しなかった。1949 年 4 月には，新生の韓国政府が GHQ に戦時中のサハリン強制連行者の引き揚げを要請した。GHQ はソ連側に積極的に働きかけることはせず，韓国とソ連の双方に外交関係を持つ第三国の仲介を検討するとの書簡を韓国政府に送る程度に止まった。建国直後に山積みの課題を抱えていた韓国政府もこの問題をそれ以上追求しなかった。

ソ連が朝鮮人引き上げ要請に応じようとしなかった理由は 2 つ考えられる。1 つは労働力ほしさである。これは先行研究の多くが指摘している論点で，日本人の引き揚げによって生じた労働力不足を埋めるかのように，北朝鮮労働者を大量に移入させていたことに端的に現れている。[11] 2 つは，ソ連がサハリンの朝鮮人を韓国ではなく北朝鮮に送還しようと考えていたことである。[12] ソ連邦閣僚会議・本国送還事務全権部代表・陸軍中将ゴルベフは，ソ連邦外務部次官マリク宛に書簡を出し（1947 年 2 月 17 日），サハリン南部居住朝鮮人 22,777 名の本国送還について政府の決定を要請した。また「ソ連邦閣僚会議決定書第○○号：サハリン南部とクリル列島の朝鮮人の北朝鮮送還問題について」という文書は，同地域の朝鮮人 23,298 名を 1948 年 7 月～10 月の間に北朝鮮に送還することを承認するとしている。[13] 南北分断の可能性は第一次米ソ共同委員会の決裂（1946 年 5 月）を契機に一気に高まり，第二次米ソ共同委員会の決裂（1947 年 10 月）によって明確になった。こうした情勢

---

[11] 例えば，日本人引き揚げ者の証言。今西一「樺太・サハリンの朝鮮人」（小樽商大『人文研究』121：1-56，2011 年）

[12] ハンは，前掲，東亜日報の「サハリンの韓人(1)」を用いてこの点を強調している。한혜인「사할린 조선인 귀국을 둘러싼 배제와 포섭의 논리：해방후-1970 년대 중반까지의 사할린 조선인 귀환 움직임을 중심으로」（ハン・イェイン「サハリン朝鮮人の帰国をめぐる排除と包摂の論理―解放後 1970 年代半ばまでのサハリン朝鮮人の帰還運動を中心に」，北海道大学スラブ研究所の国際シンポジウム発表論文，2011 年）。

[13] 前掲，東亜日報の「サハリンの韓人(1)」

を踏まえつつ，ソ連がサハリン朝鮮人の北朝鮮送還を考えていたことが浮かび上がる。ただし今回の聞き取りでは，この時期に北朝鮮への大量送還があったという話は聞いていない。既存研究によれば，北朝鮮がサハリン朝鮮人の帰還を積極的に促したのは 1957 年以降であり，大量送還もその時から実施されている。[14] この辺は今後，解明されるべき課題がまだあるように見える。

GHQ もまたサハリンの朝鮮人引き上げ問題には積極的でなかった。特に南朝鮮の米軍政部は，南朝鮮への大量の帰国者・避難民を養うほどの物資確保が困難，また民衆の騒乱などを理由に，受け入れを言明するのは望ましくないという立場であった。[15]

１－３　戦後の国際情勢の展開と帰還運動の経過

朝鮮戦争（1950.6〜1953.9）勃発のニュースに，どちらが勝っても国は一つになるので我々も帰国できるようになると，サハリン朝鮮人の多くは思ったと成點模氏はいう。残念ながら，朝鮮戦争は南北分断問題を解消するどころか，冷戦の壁を一層強固なものにしてしまった。それ以降，サハリン朝鮮人の帰郷問題の解決は，基本にゴルバチョフの登場(1985 年)，韓ソ国交樹立(1990 年)に至る冷戦の終結を待たなければならなかった。とはいっても，冷戦時代を通じてこの問題に何の進展もなかったわけではない。国際政治の合従連衡が複雑に動き，時々わずかな間氷期を出現させたからである。もっと重要なのは，そうした間氷期を活かしつつ帰還問題をとりあげる主体的能力が成長し，来るべき解氷期に備えたことである。

最初に訪れた間氷期は日ソ共同宣言（1956 年 10 月 19 日）である。ソ連共産党第 20 回党大会(1956 年 2 月)でフルシチョフがスターリン批判，平和共存路線を採択したことに端を発した間氷期である。そこで実現した 1957 年の

---

[14] 菊池嘉晃「김일성의　재일동포 귀국정책」(「金日成の在日同胞帰国政策」『中央公論』ソウル，2006 年 11〜12 月号)。조정남「북한의 사할린 한인 정책」(ゾ・ジョンナム「北韓のサハリン韓人政策」)『民族研究』第 8 号，ソウル 2002 年。

[15] 前掲の今西一。

引き上げでは，夫婦どちらでも日本国籍なら帰還できるようになった。そのときも朝鮮人は対象ではなく，日本人女性と結婚した 2,300 名の朝鮮人家族のみが帰還を認められた。[16] またも排除された朝鮮人の間では，日本に二度も裏切られたという思いが強く，ユジノサハリンスクでは 1,000 名が日本への帰郷を求めるデモを行ったとされる。[17]

1957 年の引き上げは朝鮮人の帰還運動にとって重要な契機となった。日本人妻と一緒に日本，そして一部は韓国に帰還した朝鮮人らが積極的に帰還運動を展開し，それを支援する社会運動へと成長していったからである。特に朴魯学氏らが中心となって 1958 年に結成された「樺太帰還在日韓国人会」とその支援グループは，サハリンの朝鮮人と韓国の家族をつなぐ書信往来を日本で中継したり，帰還者名簿を作成したり，貢献が大きかった。こうした運動が世論を喚起し日本と韓国の政府も重い腰を上げた。韓国政府は 1968 年日本政府に問題解決への協力を要請した。しかし日本政府が帰国費用の韓国負担を要求し，話は進まなかった。日本政府は依然としてこの問題に消極的であり，韓国政府の取り組みも本腰とはいえないものであった。[18] 何しろその頃は短い間氷期がすでに終わりかかっていた。ブレジネフ体制登場（1964 年 10 月），チェコスロバキアの「プラハの春」（1968 年）の弾圧をへてソ連側の態度は硬化していた。

次の間氷期は田中内閣で行われた 1973 年の日ソ首脳会談である。中ソ対立がつづくなか，ニクソン米大統領の電撃的な中国訪問（1972 年）を皮切りに，国際政治の合従連衡は単純な東西対立の軸を越えて大きく動いた。日ソ関係の改善を模索していたソ連側は，サハリン朝鮮人問題の解決にはじめて前向

---

16 「無国籍の日本人」，その家族である「韓人，朝鮮人」が対象であった。ソ連国籍及び北朝鮮国籍者は対象外であった。前掲の崔吉城（2003）97-99 頁。前掲，東亜日報の「サハリンの韓人(1)」。

17 前掲の崔吉城（2003）97-99 頁。

18 前掲のキム・ソンジョン「サハリン韓人同胞の帰還及び定着の政策課題」（2006 年）201 頁。

きの反応を見せた。成點模氏の証言によれば，そのときサハリンでは，当局が韓国帰還希望者の申請書受付を開始し朝鮮人社会は一時熱気に包まれたという。しかし韓国帰還に反対する北朝鮮の反発をうけ，ソ連側はすぐ態度を変え後続の交渉に応じなくなった。[19] その背景に，北朝鮮の反発もさることながら，日ソ交渉全体が膠着していたのも大きいと思われる。日中関係改善が先行する一方，日ソ首脳会談はその後長期間中断された。それからソ連はアフガニスタンに侵攻し（1979 年），時代はいわば新冷戦期にさしかかった。

本格的な解氷期が訪れたのは，ゴルバチョフのソ連共産党書記長就任（1985 年）以降のことである。サハリン朝鮮人帰還運動は 1975 年から，日本政府の責任をとう裁判運動，1983 年に国連人権委員会への提訴運動などをへて，1987 年には日ソ議員懇談会を通じた活動へと展開された。1988 年 6 月，ソ連を訪問した日本の日ソ議員懇談会代表団に，コバレンコソ連国際副部長らが問題処理を約束し，ようやく具体的な実務が動き出した。ソウルでオリンピックが開かれた 1988 年に，サハリン朝鮮人 15 名が日本経由の韓国訪問をはじめて実現した。その 10 月には，サハリン朝鮮人に対し日本に 1 年間の特別滞在を認める方針が発表され，赤十字を通じて本格的な交渉が始まった。また韓ソ国交樹立（1990 年）以降は永住帰国事業が本格化した。

2．終戦から冷戦時代まで

2－1　履歴と家族史

成點模（ソン・ジョンモ：성 점모）氏

モスクワ法律大学卒，サハリン韓人団体連合会顧問，新高麗新聞社名誉社長，ロシア文化功労者，人民親善勲章受章，勤労ベテラン・メダル授与[20]

---

[19] 前掲のキム・ソンジョン，200-208 頁。

[20] 受章記録などは，成點模「사할린 한인의 역사」（サハリン韓人の歴史）を参照した。（韓国内のサハリン韓人支援グループのブログ上にある「サハリン韓人記録史」の一部。www.sakhalinlo.com，または，http://blog.naver.com/jso0869/80053883207　いずれからもアクセスできる。2012 年 1 月 13 日現在。）

金：まず生年と履歴を伺いたい。
成：1931 年生，サハリン生まれです。パスポート上は 1930 年生となっています。

父は，韓国の慶尚北道・高靈郡・星山面の出身。サハリンにきたのは 1929 年。大邱市内の市場に行ったとき，樺太人夫募集広告をみて応募した。前金をもらって 2 年間の契約だった。仕事はコルサコプとユジノサハリンスクの道路工事だった。サハリンにきて 1 年後には，母を呼び寄せた。私は 4 兄弟の末っ子で，上の兄二人との年齢差は 20 才近くもある。三男の兄も 10 才ほど年上だ。母はサハリンにくるとき，長男と次男は実家の祖父のところにあずけ， 9 才の三男だけをつれてきた。私はその翌年に生まれた。上の兄二人も 1941 年頃にサハリンに渡ってきた。そのとき二人ともすでに結婚しており，家族をつれてきた。
金：1941 年といえば，徴用はまだ始まっていないので，自由募集ですか。
成：そうです。ただ，自由募集といっても，前金をもらってくるので，結局は徴用された人と変わらない待遇です。指定された場所で寝食し，働き，外には出られない状況ですから。
金：家族や親族は今もみなサハリンで暮らしていますか。
成：親父は 1951 年に亡くなられた。母もその 15 年後の 1966 年頃に他界。3 人の兄もすでに他界した。兄たちの家族，甥や姪も半分近くが韓国に永住帰国している。ここには今は半分しか残っていない。

金：学校はどのように通いましたか。
成：1945 年の解放当時，日本の小学校 8 年生でした。正確には高小 2 年目ですね。つまり 8 年間は日本の小学校に通ったことになります。学校は，アニヴァ（樺太時代の留多加＝るたか）にありました。

解放後，私はロシア語を学ぼうとしたが，父上に止められた。すぐ韓国に帰るのでロシア語は要らないとのことでした。

終戦のとき，朝鮮の人々は朝鮮人が日本人より先に故郷に帰れると思って

いました。だが，実際は日本人が先に引き上げることになった。その時でさえ，地方行政（ソ連当局？）の話を信じて，日本人の引き上げが終われば次は朝鮮人の引き上げになると信じていた。騙されたということです。

朝鮮戦争が勃発した時も帰郷はいずれ実現できると思った。どちらが勝っても国は一つになる。それなら我々も戻れると思ったのだ。結局，夢に終わってしまいましたが。

帰郷の夢を膨らませた三番目の契機は，1965 年の韓日国交正常化交渉のときでした。交渉となれば，サハリンに残された韓人の問題がきっと話題になるはずだ。当時はみな，そう信じて疑わなかった。しかし結局は何も起こらなかった。この問題をできるだけ避けて通ろうとした日本の態度はもうわかっていたが，韓国側さえこの問題を取り上げなかったのは，実に残念でしかたない。

このように帰郷への夢が何度も裏切られてから，私はようやくロシア学校に通い始めた。もう故郷には戻れない。ここで生き残るにはこの国のことを勉強しないといけない。子供の教育もある。

金：ソ連国籍もその時に取得しましたか。

成：国籍はすでに取得済みだった。国籍がないと，隣の町に出かけるのも自由にできない。いつも背中に監視の目を意識させられる。やむを得なかった。

かくして，もう 30 代になってロシア学校に通い始めた。はじめは夜間学校に通った。それから財政専門学校に入学した。日本でいえば，単科大学のようなものだ。その後，モスクワ法律大学を卒業した。

金：モスクワの有名大学にまで進学されたのですね。かなりの晩学なのに。

成：確かに，卒業時はもう 40 代になっていたからね。

金：入党（共産党のこと）されたのはいつ頃でしたか。

成：いつ頃だったっけ。多分，1960 年代です。30 才を少々超えてからです。

金：党に入れてもらえるには，働きぶりが相当よくないといけないのでは。

成：当時は，郡（チェホ）行政の財政部門に勤めていました。そういうところで働くには党員でなければならない。新聞社（新高麗新聞社）に移るまで，

ずっと行政の財政畑で働いた。最後に勤めたのは，ティモフス郡の財政監督(財政部門のトップ)であった。その後は新聞社に移り，ずっとその仕事をやってきた。

金：行政で働く韓人も多かったのですか。

成：いいえ。むしろ少なかったといえます。ソ連時代，韓人の多くは農業，建築会社，製紙工場，水産コンビナートなどに勤めていたから。管理職に昇った人もいるけど，そう多くはありません。(事務・専門系の仕事なら）教員が少々いるくらいかな。今のサハリン大学は，昔は教員大学でした。大学ができて間もない頃，バク・スホ（박 수호）氏が教鞭をとっていました。バク(朴)さんは引退後モスクワに移り住んでいたけど，去年だったかな，もう亡くなられた。ポリテカエコノミ（政治経済学）を教えていて，日本語と韓国語を教える東洋学科をつくった方です。ほかにも普通学校などの先生に韓人が少々いました。理事（どういう理事かは不明）の職に就いた人も若干名。ほかに，建築関係の専門職には結構いたと思います。でも，大きい行政機関や党の仕事についた人は極めて希でした。

補足及びコメント

成氏の家族は，韓国出身の第一世代である父の死去（1951 年）後も，1960 年代はじめまで韓国帰還への夢を断ち切らずにいた。それ以降ようやくソ連定着を決心しロシア学校に通い始めたことは印象的である。

サハリン州執行委員会議長エメルヤノフ名義の実態報告書によれば，サハリン朝鮮人の職業分布は，1951 年 9 月現在，以下の通り。

労働者 19,830，公務員 225，農民 1,628，手工業 535，被扶養者 8,944，失業 816 名。[21]

[21] 前掲，東亜日報の「サハリンの韓人(2)」1993 年 4 月 23 日。

２－２　３つの韓人　戦後，大陸から　北朝鮮から

中山：ちょっと確認ですが。離散家族会は基本的には日本時代からいた韓人たちが主要なメンバーになりますよね。

成：もちろんそうです。

中山：サハリン韓人会に中央アジアからきた人たちは。

成：入っていません。入会を断っているわけではありません。向こうが入らないだけです。

金：終戦後，大陸からここにきた人が相当いますか。

成：そんなにいません。ほとんどは大陸に戻ってしまって。サハリンで韓人というのは，実は三種類がいます。１つは先住民。日本時代から住んでいた人たちです。２つは1946年か1947年頃から北朝鮮から水産業などにきて定住してしまった人たち，３つはソ連の大陸，つまり中央アジアからきた人たちがいます。先住民の間では交流が多い。しかし北朝鮮からきた人と先住民の関係はやや難しい。北朝鮮からきた人はイメージが悪いからです。始めてきた時，盗みやいろいろ悪いことをたくさんやったという経験から，先住民は今でもこれらの方とのつき合いに積極的でない。大陸からきた人たちとの関係はもっと難しいのです。ここは，ソ連共産党の政策にも原因があります。終戦後，先住民は，ソ連当局による再教養（社会主義思想教育）を受けました。その時，大陸からきた韓人を教養者（＝教育を行う人）として使ったわけです。その経験から，先住民は大陸出身の韓人を警戒する傾向があります。そういう傾向も今では少々弱まりましたが，まだ尾を引いているといえます。

金：解放の時，十何歳でしたっけ。

成：15才。

金：ロシア軍がはじめてきたとき，韓人はどんな態度でしたか。怖かったですか。それとも，日本をやっつけてくれたという意識や期待も少しはあったのですか。

成：アニヴァに住んでいて，ホルムスク方面からくるロシア軍，海軍だと思いますが，を初めて見ました。アニヴァにはリュトガ川という大きな川が流

れており，当時，木造の橋が架かっていました。ロシア軍がアニヴァの町に入るにはその橋を渡らなければなりません。ただ，ロシア軍は戦車を持ってきたので戦車がその橋を通れるかが心配だったようです。橋の検査に三日もかかりました。その間，数百か千名ほどの部隊が川の向こうに泊まるわけです。まだ子供だったから，好奇心が勝っていたでしょう。近づくと兵士たちが声をかけてきます。意味は全くわからないけど，パンとか，バター，時にはソ連のお金，3ルーブルか，5ルーブルのお金をくれたりしました。子供たちはすごく可愛がってくれるんですね。

でも，大人たちは怖がって日本人も韓人も家から一切出てこない。ロシア軍が進駐して最初にできたのが民政局です。民間のすべての事務をそこで取り扱ってくれたのです。局長をはじめ，そこで事務をやっていた人はみんな軍人です。民政局は2年か3年つづきまして，その後ちゃんとした行政府ができました。その頃は，夜は外出がなかなか厳しかったのです。かならず途中で調べられる。外出禁止時間は午後9時か，10時からでした。しかし時間がたつにつれ，すべてが段々正常に戻り，職場でみんな働くようになりました。

ここにきたロシア軍人がもっとも欲しがっていたのは時計でした。時計だけは「とけい」と日本語をしゃべりました。時計を渡せば，お米を一俵もらえたのです。お米は配給でしたけど。日本時代のお米倉庫をロシアが管理していて，倉庫係なんかが時計をもらってお米をくれたのです。

金：ロシア兵に物を取られたとか，レイプなどはなかったんですか。

成：レイプは一件だけ聞いたことがあります。夜一人で出歩いた女性がやられた事件がありました。ただ，ロシア軍は規律があって，みだりにそういうことが起こったわけではありません。

中山：軍の回りに売春婦が増えたことはありませんか。

成：それはありませんでした。売春婦を雇うにも，ロシア人はお金がなかったからね。

中山：先ほど日本時代から住んでいる韓人を先住民とおっしゃいましたけど，そういった呼び方みたいものがあるんですか。

成：そうです。先住民はソンジュウミン（선주민）です。それから，北朝鮮から来た人を派遣労務者（パギョンノムジャ：파견노무자）と呼び，大陸からきた人をクンタンベギ（큰땅백이）と呼びます。クンタンベギって，大陸の者という意味です。

金：派遣労務者とは北朝鮮に帰らずに逃げ出した人々ですか。

成：逃げる必要はないわけで，当時はただ，帰りたくありません，残りますといえばよかったのです。当時は帰らないと行けないという強制はなかったから，自由に選択できたようです。

中山：ある種の移住ですね。

成：そういうことになってしまいます。

金：ソ連が労働力不足なので北朝鮮から人にきてもらって。

成：そうです。残れたというのは，北朝鮮とソ連，両政府の間にそれなりの相談があったのでしょう。全然問題なく，残りたい人はどうぞという感じでした。

中山：国籍は北朝鮮籍のままですか。

成：長く北朝鮮籍のままでしたけど，後ほどソ連籍に変わりました。

金：それでは，集団生活でやっている今の北朝鮮労務者とはたいぶ違いますね。

成：かなり違います。今の人たちは，ロシア政府が関与しなくても，自主的に管理されていて 3 年働いたら帰ります。

金：昔，北朝鮮からきた派遣労務者出身は現在も韓人のなかで比較的貧しい層をなしていますか。

成：まったくそうではありません。今ではほかの韓人と何も変わりません。中には，韓国に永住帰国した人もいます。

金：派遣労務者出身の家とは結婚させないとかというのは，今はありませんか。

成：昔はありました。でも，今はまったくなくなっています。
中山：今の若い世代では，自分の顔立ちが東洋人とわかっているだけで，祖父や祖母がどこから来たのかを知らない人たちがいますか。
成：そうです。3世，4世になったら，お爺ちゃんがどこからどうやってここにきたか，知らない人が一杯います。
中山：親は子供や孫に家族の出自とかをあまり言い聞かせないのですか。
成：それをわざわざいわなければならない必要がないからね。昔の日本時代のように戸籍とかがあればすぐわかりますが。
中山：いわないと，子供のつきあう相手が多様化されていきますよね。
成：いったって何も変わりませんよ。
金：民族の表記をなくしたのは最近ですか。
成：そうです。それが，3～4年前からかな。今の新しいパスポートができてからのことです。だから，5，6年以上前かも知れない。
中山：いずれにしても2000年代に入ってからですか。
成：そうです。
金：それでは，今後は民族別の統計もなかなか取れなくなるかも知れませんね。
中山：お母さんが日本人でもお父さんがロシア人だったら，ロシア人に分類されてしまったり。
成：そのようになります。

補足及びコメント

韓国在外同胞財団の統計（2009年）によれば，旧ソ連地域のコリアン人口は54万人。サハリンの朝鮮人（いわば先住民）や北朝鮮からの派遣労働者出身を除けば，ほとんどは，1937年にスターリンによって沿海州から中央アジアに強制移住させられた朝鮮人とその子孫である。この人たちは自らを高麗人と称し，ペレストロイカ以降はモスクワ高麗人協会(1989年5月)，全ソ連高麗人協会（1990年5月）など民族団体を立ち上げた。

当初の労働契約期間を過ぎてサハリンに残留する北朝鮮労働者について，最初の頃はソ連当局が労働力ほしさに帰国を強制しなかったという実態が証言で確認されている。北朝鮮がサハリン派遣労働者の送還をソ連に積極的に申し入れたのは 1957 年以降のことである。[22]

サハリンの朝鮮人（いわば先住民）が大陸出身の高麗人を介したソ連当局の統制に対して反発した事例として，朝鮮共産党事件がある。先住民の一部が 1950 年 5 月に朝鮮共産党を秘密に結成し，後に関係者が逮捕された事件である。この組織は帰国を目標に掲げており，大陸出身の高麗人や北朝鮮出身者の干渉を排し，帰国するか否かは先住民本人の意思が尊重されるべきで，ソ連共産党はその権利保障に関わるべきだとしていた。[23]

高麗人に対する先住民の反発は，基本に先住民を労働力としてサハリンに繋ぎ止めようとするソ連の政策に対する反発といえる。ただ，同胞愛を期待する先住民の前に現れた高麗人の多くが，スターリン時代のソ連社会に過剰同化した人たちであったことも注目しておきたい。この過剰同化がスターリン時代の民族弾圧政策の産物であったのはいうまでもない。

強制移住前の朝鮮人は朝鮮学校や朝鮮語の新聞を有していたが，強制移住直後の 1938～1939 年はすべての高麗人学校で朝鮮語教育が禁止され，ロシア語使用が強制された。ただ，その実行は現実には難しかったらしく，1940 年代を通じて朝鮮語による授業を減らす動きはつづいた。「弾圧対象民族」として分類され，移動の自由にも厳しい制限が付けられていた。こうした抑圧政策の基調はスターリンが死ぬまでつづいた。ソ連社会で生き延びるため，高麗人はソ連への忠誠心を過剰なまで証明しなければならなかった。第二次世界大戦においても，「弾圧対象民族」は参加する「栄光」を享受できない。弾圧されるべき対象ではないことを証明するため，高麗人の多くは懸命に従軍

---

22 前掲の菊池嘉晃（2006 年 11～12 月号）

23 朴享柱『サハリンからのレポート―捨てられた朝鮮人の歴史と証言』お茶の水書房 1990 年。

希望を出した。それでも配属先は，戦闘部隊ではなく労働隊であった。V. S. カン氏の事例では，「弾圧対象民族」条項に引っかかり，迫撃砲部隊から除名される所を，モスクワの孤児院出身だという証明書のお陰で救われたという。終戦後，ソ連軍と一緒にサハリンに現れた高麗人の大半は，このように証明への強迫観念に長年駆られてきた人たちである。[24]

中央アジアで朝鮮語授業抑圧の基調がつづくなか，サハリンではソ連当局が朝鮮学校と朝鮮語新聞の新設に積極的であったのは興味深い。サハリンで最初の朝鮮学校は 1946 年に開校し，1949 年には朝鮮語新聞「朝鮮労働者」が創刊された。その目的は朝鮮人の再教養にあると成點模はいう。[25]

2 ― 3　国籍問題　50 年代北朝鮮国籍

金：ソ連国籍取得の話です。終戦後のソ連時代になって，はじめは申請すれば取得できたのに，その後，なかなか取れない時期もあったと聞いたのですが。

成：いいえ，そういうことはなかったはずです。でも，そういう質問がなぜ出てくるか，わかるような気がします。ロシア人がこちらにきてから，はじめは（韓人は）皆，無国籍でした。無国籍証明書が発行されていたのです。しばらくしてから，ソ連と北韓(北朝鮮)，どちらかの国籍を選べといわれました。うちの家族はソ連を選択しました。父も私も，北韓国籍にはそもそも興味がなかった。しかし北韓出身者をはじめ，韓人 4 万名のうち約 2 万 5 千名が北韓籍を選択しました。早く古里に帰るには，北韓国籍でも持っていた方が有利と思う人が多かった。ソ連国籍をとった者は 1 万名しかいなかった。

---

[24] 보리스 박， 니콜라이 부가이 지음， 오성환 감수， 김광환， 이백용 옮김『러시아에서의 140 년간：재러한인 이주사 II』（ボリス・バク，ニコライ・ブガイ著『ロシアでの 140 年間 II』）ロシアの韓国大使館，韓国外交通商部の在外同胞財団，全ロシア高麗人連合会，ソウル 2004 年，第 7 章，389-392，374-379 頁。

[25] 前掲の成點模「サハリン韓人の歴史」www.sakhalinlo.com。

残りの約５千名はそのまま無国籍で残った。当時のソ連国籍取得は難しくなかった。確か，時間は少々かかった。申請してから半年ほど待たされたような気がする。

問題となったのは北韓国籍を選んでしまった人です。北韓がどんな社会か，段々わかってきましたから。1960 年代に大勢の若者が北韓に渡りましたけど，行ったきりで消息をつかめなくなった人もいます。戻ってきた人の話を聞くと，到底人間の暮らす所ではない。そこで北韓国籍を返上しソ連籍に切り替えようとする人が増えた。しかし当時のソ連と北韓は兄弟の間柄でしょう。ソ連籍への切り替えを申し込んでも，なぜ北韓国籍を捨てるのかとしつこく聞かれ，許可がなかなか下りなかった。ソ連籍取得に数年以上かかる人も多かったのです。

無国籍者もその後徐々にソ連籍になったので今はほとんどいません。今なら，第一世代は本人が希望さえすれば韓国に永住帰国できるし。

ふり返ると，社会主義時代はいろいろ不便なことが多かった。先住民（サハリンの少数民族のこと）や韓人に対する人種差別もいろいろあった。高位職には上れないし，主たる国家機関に就職するのも簡単ではなかった。最近の若い世代は徴兵されることになっているが，朝鮮の人なら 99％が建設部隊に配属される。空軍や戦車部隊のような所には配置されない。大学進学にも制約がある。陸軍大学や外交官養成大学などは難しい。このような大きい差別のほか，日常生活のなかにもささいな差別があった。例えばバスで旅行中，検問の警察は金髪の人を通り過ぎて，主に黒い髪色の人にパスポートの提示を要求する。住宅割り当てにも不利益がありました。社会主義の時は住宅を国家が配給してくれます。５階建てのアパート，皆そこで暮らす。朝鮮の人なら 99％，１階か５階が割り当てられます。ほぼ決まりのようにね。誰もがいやがる不便な階です。たまに，近所といざこざがあると，「ソ連に文句あるなら北韓に帰れよ」と罵声を浴びせられることもある。社会主義時代のロシア人の念頭に，韓国という国は存在しなかった。お前らの国は北韓となるわ

けだ。蔑視されました。

金：差別については，どのように感じたかに個人差があると思います。懸命に働いたから，よく認めてもらって差別をあまり感じなかったという方もいるようですが。
成：もちろん，そうです。私が申し上げたのはあくまで一般論です。
金：先生は，韓人の中では珍しく，広く社会的情報に接し，かつ考える位置に永らくおられたと思います。そういう意味ではたいへん参考になります。
成：差別がまったくなかったといえば，いくら何でも，それは嘘でしょう。衣食に困らないという程度の話なら，わかりますけど。そんなに大きい差はありませんでしたから。
金：でも，社会的に少々上を目指そうと思えば，壁が立ちはだかる。
成：その通りです。例えば，国家の表彰もそうです。朝鮮の人は本当によく働きました。それでも，勲章をもらうのは簡単ではなかったのです。例えば，建設機関では優秀で働き者の朝鮮人が多かったのですが，機関が推薦しても，行政府から断られることが多かったのです。ロジア人はいないのか。何でわざわざ朝鮮人に勲章をあげなければならないのかと露骨にいうほどだから，差別がなかったといえば嘘でしょう。

金：ソ連国籍の取得についてですが。北韓籍からの切り替えではなくても，最初からソ連籍の取得が難しく，無国籍のまま，いろいろ苦労があったという話も聞いたのですが。
成：さあ，そんなはずは。
金：1950 年代末になってようやく取得した。つまり戦後 10 年余も無国籍だったという話です。
成：少々話が違いますね。確か，最初の頃が少々難しかったと思います。ソ連国籍を認め出したのは 1950 年代はじめからです。その頃はやや難しかった。でも，北韓から領事がきて宣伝を始めた頃から，ソ連籍は申請するだけ

ですいすい通りました。
金：北韓から北韓籍をとるよう働きかけられた時ですね。いつ頃からですか。
成：正確には覚えていませんが，1950 年代末ではないかと思います。ソ連も労働力がほしかったから，北韓の宣伝が始まってからは，申請さえすればすぐソ連籍をくれたのです。その時の北韓の領事は名前も覚えています。イ・テシック（이 태식）という人で，達弁でした。彼の話を聞いた大勢の人が北韓籍を選んだのです。
金：1950 年代といえば，産業や技術面で北韓が南韓に勝っていた時期でもありますからね。
成：当時は北韓も悪くなかったと思います。
金：北韓が宣伝をはじめたら，ソ連当局の態度も変わったということですね。
成：ソ連はその時も労働力が不足していました。大戦のとき，多くの人を失ったからです。兄弟の国とはいえ，できれば，ここの人々にソ連籍を持たせたかった。北韓籍だと，いつ北韓に帰ってしまうかわからない。

補足及びコメント

成點模氏によれば，朝鮮人にソ連国籍を認め出したのは 1950 年代はじめからである。ただしそれ以前にもソ連籍取得は可能だったようだ。今回は日本人会にも聞き取りに行ったが，ある日本人の経験として，「1948 年頃に父はロシア国籍を取得しようとしたがほかの家族が反対した」という証言がある。同じ現地住民としての経験を綴った朴享柱（1990 年）によれば，大陸からきた高麗人は，はじめからソ連籍を積極的に勧めて回った。特に 1950 年の朝鮮戦争勃発に際し，社会主義の未来と祖国統一の見通しを宣伝しつつ積極的になった。そのとき，子女の将来を心配する家族持ちや思想を疑われそうになった知識人を中心にソ連籍取得者が増えた。[26] ただし大勢は依然としてソ連籍取得に興味を示さず無国籍のまま残った。

---

[26] 前掲の朴享柱（1990 年）。

ソ連か，北朝鮮かどちらを選べ，という雰囲気になったのは 1957，58 年頃のようである。それまで，派遣労働者のソ連領残留をほぼ傍観してきた北朝鮮は，その頃になって，中国，日本，そしてソ連の在外同胞の帰還事業に力を入れはじめた。ソ連は北朝鮮の要請に応じ，共産党中央委員会決議（1958 年 6 月 5 日）によって，応募労働者を 1958 年末まで北朝鮮に帰還させると決定した。しかし希望者が少なく，期限は延ばされた。北朝鮮の再三の要請により，1959 年には，3,089 名とその家族が帰還。その後も少数ながら帰還事業はつづいたが，人気はふるわず 1964 年 4 月を最後に中断となった。また北朝鮮は 1958 年頃からナホトカ総領事館を通じて，朝鮮語学校と連携し学習組を組織するなどしつつ，サハリン朝鮮人への宣伝活動を強化した。[27]

興味深いのは，北朝鮮からの宣伝活動があったとはいえ，この時期にソ連籍より北朝鮮籍を選んだ人が圧倒的に多かったことである。それに対し，ソ連籍を選んだ人は，職業選択，地位昇進，大学入学など，現地での暮らしに関わる理由があった。[28] 多くの人は不利益を承知で，いずれ統一されるだろう祖国にかけたのである。また日本人会での証言によれば，北朝鮮と日本の国交正常化が進み，北朝鮮経由でも日本に行けると宣伝されたという。

2－4　言語，文化　朝鮮学校廃止

金：朝鮮学校は 1964 年に廃校になったとおっしゃいましたが，廃校の理由は何でしょうか。

成：表向きは，学生の父兄や保護者から廃校の要請があったとされています。朝鮮語を習ってもソ連の暮らしに何の役にも立たないという理由でした。だが，行政府が廃校を決めた本当の理由は別にあります。一言でいうと，面倒だということです。教員が高齢化で引退すると，新人を育成しないといけない。ソ連全国でみれば少数の人のために，教科書執筆にそれなりの学者を集

---

[27] 前掲の菊池嘉晃（2006 年 11～12 月）。
[28] 前掲の成點模「サハリン韓人の歴史」www.sakhalinlo.com。

めなければならない。その費用が負担になってきたのです。
金：廃校の決定は行政府のどのレベルで行われますか。サハリン行政府内で決められますか。
成：学校の改廃問題は党の管轄で，中央委の了承が必要です。
金：サハリンの党中央委ですか。
成：報告は，モスクワの党中央委員会まで上げられます。ロシア学校の廃校ならば，こんな田舎の学校問題ならサハリン内部で処理されます。しかし朝鮮学校は民族学校なので，党中央委まで報告され，了承されます。
金：私も子供を日本で育てています。異国で子供に韓国語を教え込むのはやはり簡単ではないとつくづく思います。子供が韓国の言葉や文化を受け継いでほしいという気持ちはありますが，その社会にうまく溶け込み立派に生きることも願っています。問題はこの二つが時として衝突することです。学生の保護者が，朝鮮学校ではなくロシア学校に子弟を入れようとする気持ちもわかるような気がします。
成：学生の親にとって民族学校はそれほど必要ではなくなっていました。朝鮮学校に通えば，ロシア語能力が相対的に弱くなる傾向があるからです。ロシア語が劣ると大学入試にかなり不利です。ハンディを知りつつ，わざわざ朝鮮学校に通わせる必要があるのか。特に若い世代にそういう考えが広まったと思います。子女を朝鮮学校からロシア学校に転校させる若い親もいました。朝鮮学校側はもちろん転校を喜びませんから，親との間に少々軋みがあったかも知れません。とはいっても，学校のあり方を変えろと，保護者側が何か大きい要請を出したことはないのです。韓国語を習うのは大歓迎だが，子供の将来の出世を妨げる結果になってはいけない。妨げにならない限りで学ぶのはよい。これが，親の素直な気持ちだと思います。
金：そういえば，先生の場合は韓国語をどうやって習得されましたか。
成：自習，独学といった程度かな。
金：先生の韓国語はあまりに流暢で，韓国で育った人との違いをまったく感じさせません。子供の頃は日本学校，戦後はロシア社会で過ごしたことを思

えば，韓国語のこの流暢さは驚きです。もちろん家庭で韓国語を使ってきたでしょうが，こういう対話に出てくる語彙は，家庭生活よりは学校教育や社会生活から習得されるものなので。

成：確か，戦前は日本語中心でした。学校で日本語でしょう。放課後も日本人友達の家に遊びに行って遅く帰ることが多い。でも，家に戻ったら，日本語使用は親父によって禁じられていました。日本語を喋ったら厳しく叱られます。お陰で韓国語を身につけたと思います。韓国語の文字や文書の勉強は戦後になって，ほぼ独学でやりました。終戦直後，ハングルのカギャコギョ（가갸거겨）に，姉嫁が日本語の「あいうえお」でふりがなを付けてくれました。玉編（韓国語版の漢字辞典）を何とか入手し漢字の韓国語読みを練習しました。文法が日本語に似ているので，以上で韓国語の土台が作られました。

金：本当に独学ですね。日常会話がある程度できる人でも，文字や文書を積極的に学習しないとハイレベルの会話は難しい。独学でここまでできるとは，実に感心します。

成：お褒めいただき恐縮ですが，まったくその通りで，文字や本が決め手です。こうした体験から，私は回りのドンム（友達）にいつもいいます。やる気さえあれば，自分の民族語は絶対に学べると。この頃は，回りのチング（友達）も一人二人亡くなりつつあります。一生を終えるまで日本語くせが抜けないまま，韓国語を正確に喋れない人も中には大勢います。今でも友達（チング）とは日本語で会話することが多い。家に帰ったら韓国語，外ではロシア語になります。

金：家族内の言語環境はどうなりますか。

成：妻とは韓国語で喋りますが，日本語が混ざるときもあります。長女は，もう死んでしまったけど，韓国語を聞き取れました。しかし下の子供，つまり息子二人，娘一人とは完全にロシア語です。もちろん孫ともロシア語ですね。

金：幼児のとき韓国語を使ったとしても，やはり読み書きを教えないと言葉を維持するのは難しい。やはり学校の役割は決定的です。

成：その通りです。子供に韓国語ができないというと，なぜ教えないのかと首をかしげるロシア人の友人もいる。でも，口でいうのは簡単だけど，日々の生活のなかで実行するのは容易ではない。子供は，朝食後は幼稚園にゆき，遅く帰ったら夕食，そして寝込んでしまう。学校に通う子供も，外で遊び，夕食時間になって帰ってくることが多い。家族が一緒になる時間といえば，朝食や夕食時間，テレビをつけてもロシア語です。朝鮮語を教える時間をなかなか作れないのが現状です。
金：うちも，妻が仕事をほぼあきらめ，3年ほど子供に付きっきりで韓国語を教えました。それでようやく韓国で同年代の子供の読む本が読めたのです。学校がなければ，一家族の手に負えない仕事なのです。ご苦労は十分察して余りあります。

この後，成さんから逆に日本に定住している私（金）の事情について，いろいろ質問された。質問は，日本の大学が外国人の採用にオープンなのかどうか，国籍に対する考え方，永住外国人の参政権問題などに及んだ。

2－5　日ソ首脳会談（1973年）後の進展と北朝鮮の反対

金：韓国への永住帰国を選択せず，サハリン残留を決めた方もおられますね。長いサハリン生活のすえ，各自の事情がいろいろ複雑である以上，帰国か残留かの決断も簡単ではなかったと思いますが。
成：その通りです。ふり返れば，サハリン韓人の永住帰国問題はもう少し早い段階で，25年か30年も前に解決できる機会が十分あったと思います。韓国とソ連の国交が正常化されたのが1990年です。それまでは二国間に直接の窓口がないので，サハリン韓人問題は主として日本を通じて，つまり日本の代議士らの活動によって日本とソ連が話し合う形で進みました。佐藤内閣の7年間，日本政府はこの問題をまったく取り上げてくれなかったが，次の田中角栄内閣になって漸く光が差し始めた。日本政府の打診に当時のソ連側が肯定的反応を見せたからです。ブレズネフ（書記長），カシチェンコ（首相），

グロミコ（外相）といった最高権力者レベルで，この問題をめぐって前向きの発言がありました。赤十字社も然り。話は急ピッチで進み，日本経由で韓国に帰国させることが決まった。しかしそこで帰国費用の負担問題が浮上してきたのです。日本はそれを韓国に負担させようとした。韓国政府はそれに反発し，サハリンに連れて行ったのは日本だから，返す費用も日本が負担すべきだと主張したのです。

もっと大きな障害は北韓の反対でした。田中・ブレズネフ会談で話が進んだときも北韓は反対しました。こんな出来事もありました。出入国管理局，これは内務省管轄つまり警察管轄の機関ですが，その機関が 1976 年に韓国永住帰国を希望する者の申請書を受け付けるという広告を出したのです。瞬く間にサハリン各地でたいへんな騒ぎになりました。たった 2 日か 3 日で，申請者数が 1 千名をこえる盛況ぶりです。早朝の午前 3 時から出入国管理局の前に長蛇の列ができた。手続きは 30 ルーブル，つまり 1.2 ドルの手数料さえ払えば OK でした。しかし北韓領事館が駆けつけてきて抗議してから事態が一変し，手続きは急遽中止となりました。

金：急にひっくり返るなんて。みんなで当局に抗議したりはしなかったのですか。

成：抗議っていうのは，当時は不可能でした。抗議運動は法的に禁じられていたし。もちろん今ならできます。不満があればいつでも地方行政府の許可をえて集会を開けます。当時，ホロナイスク，コルサコプ，ホムスクで抗議らしきものがありました。とはいっても，コルサコプのト・マンサン（도 만상）氏のほかは，目立つ抗議行動ではなかったけど。ト・マンサン氏は家族総出で，我々を故郷に，韓国に送り返せと，行政機関の前で声を上げました。どうなったと思いますか。韓国ではなく，北韓に送ってしまった。氏の故郷は韓国の京畿道でした。[29] ユジノ，ホロナイスク，コルサコプ，ホムス

[29] 当時，ト・マンサン氏の国籍は北朝鮮だったが，韓国の親戚から永住帰国の招待状を受け取っていた。韓国行きが駄目なら，日本行きでも許可してくれと抗議したようだ。前掲の崔吉城（2003）218 頁。

クの5家族40名が，そのとき全員，北韓に送られたのです。
金：いつ頃の話ですか。
成：1976年頃の出来事です。この件を知っている方は日本にも多いはずです。こういう状況なので，抗議運動らしきものは一切できませんでした。

日本経由で韓国に送る案が浮かび上がったとき，ソ連のグロミコ外相は問題解決に前向きの発言をくり返していた。しかし北韓の反対を理由に態度が突然変わったのです。次の交渉では，この問題はソ連と北韓の二国間問題であり，日本が口出しすべきでないと，日本側の要求を断りました。

次のシェワルナゼ外務大臣のときも似たことが繰り返されました。東京で行われた日ソ外相会談の席上で，日本側がサハリン韓人の永住帰国問題を持ち出すと，氏は自分の責任において解決に尽力すると答えたのです。1974年か，1976年の出来事です（シェワルナゼ氏の外務大臣在任期間は1985〜1990年，東京の日ソ外相会談は1986年なので，その部分は正確ではない）。しかし翌年のモスクワ会談では態度が一変していました。同盟関係にある北韓の反対を無視できなかったからです。北韓の反対さえなかったら，永住帰国問題は25〜30年前に解決できたはずです。その間，第一世代の多くが亡くなられました。無念でなりません。

補足及びコメント

成點模氏は別の稿によれば，1970年代半ばに黄仁甲など4名に，ソ連当局の出国許可が降りるという奇跡的な出来事もあった。ただし3カ月以内に日本国の入国許可をもらうことが前提であった。帰還費用を誰が負担するかで日本と韓国の調整が滞り，日本の入国許可が降りたのは3カ月を過ぎてからであった。結局，この4名は出国許可を取り消され出国できなかった。[30]

[30] 前掲の成點模「サハリン韓人の歴史」www.sakhalinlo.com。

2－6　韓人自治体構想と北朝鮮離れ

韓人自治体構想

金：農業は集団農場になっていますね。韓人の多くが農業に従事したようですけど，特に韓人の多い農場とかもありましたか。

成：太平洋の星コルホズというのがあります。ここ（ユジノサハリンスク）からそれほど遠くありません。組織したのはロシア大陸，つまり中央アジアから来た人です。その人が農場の働き手を募集しましたが，主に朝鮮の人が集まったのです。もちろんロシア人も一部いましたけど。しかしそれを除けば，朝鮮人が中心になって作った農場や会社はありません。製紙工場にしろ，林業にしろ，ロシア人に混ざってやっていました。

金：ソ連当局側に，民族分散政策というか，朝鮮人を分散居住させようとする政策はありませんでしたか。

成：分散政策というのはなかった。ソ連時代は集団づくりを奨励しましたから。

金：でも，ある民族が特定の組織に集中していれば，当局にどう思われたか。

成：そのようなことはあまりありません。もしあれば，当局は警戒するはずです。

金：戦前の朝鮮人の居住はどうでしたか。分散して暮らしましたか。それとも集団居住が多かったのですか。

成：分散して暮らしました。集まって暮らしたのは，募集できた人たちです。主に炭坑の飯場に数百，数千名が集まっていました。

金：飯場のほかに，町の中に，コリアンタウンというか，あちらの通りにいけば朝鮮人が多く住んでいる，といった所はなかったのですか。

成：ありません。ソ連時代になってから，朝鮮の人が集まる町を作ればどうか，というアイデアが出たことはあります。実現しなかったけど。

金：おもしろい。詳細を聞かせて下さい。

成：自治体を作ろうという話でした。マカロフ郡に，韓人の自治体を作ったらどうかという話が，州の行政府内で持ち上がったことがあります。とはいっ

ても，話があっただけで，具体的に何かを始めたこともなかった。
金：韓人からの輿望があったのですか。自治体を作りたいという。
成：そうではありません。行政府内から出た話で，韓人から何か要請があったわけではありません。しかも行政府のなかにも反対意見が多く，その話は立ち消えになった。
金：反対する理由は。
成：ロシアは国際主義だから，民族別に分けるより混ざった方がよい，という考えだったと思います。中国には韓人の自治体がありますが。
金：ロシアにも大きい民族は共和国を作っていますよね。サハリンの韓人は数が少ないということですかね。
成：そういえるかも知れません。

北朝鮮離れ

金：それでは，サハリン韓人の多くは北韓に対してあまりよい感情をもっていないということですか。
成：嫌いですよ。それは当然。私も北韓を 3 度訪問しましたけど，そこは人間の住める土地ではありません。
金：サハリンの韓人団体と北韓の関係はどうでしたか。ご存じのように日本には在日朝鮮人の団体として朝鮮総連というのがあります。北韓や日本政府と協力し，大勢の在日朝鮮人を北韓に送りました。組織の上層部は北韓の実像を知りつつも，協力をつづけたと思います。ソ連と北韓は，日本と北韓より近い関係です。サハリンの韓人団体も公式には北韓と親密な関係を維持しないと行けないような状況はなかったのでしょうか。
成：もちろんソ連と北韓はイデオロギー的に近いので，ここでも最初の頃は，北韓にシンパシーを抱く傾向が少々ありました。北韓領事館から人が来て北韓の主体思想を宣伝したし，主体思想を学ぶ学習組という組織らしきものもありました。しかし人の往来によって向こうの実情が知れ渡ると，次第に冷めた雰囲気に変わりました。はじめは大勢が参加した学習組活動も，そのう

ち立ち消えになったのです。北韓領事館と連絡をとりつつその窓口役を勤める人が現在も１人います。コン・スンシック（權　순식）という方です。詳細は知りませんが，恐らく北韓訪問団，観光ツアーを組織するのが主な仕事ではないでしょうか。今では観光ツアーの参加者募集も容易ではない。一年を通してせいぜい 20〜25 名を集められるかどうか。そのほとんどが，死ぬ前に北韓にいる家族や親戚の顔をもう一度見たいという人です。ほかに，わざわざ訪問しようとする人はいません。

金：日本の在日朝鮮人のなかにも，北韓に渡った親族に会うため，北韓国籍を維持する人がいます。たまに訪問してお金を援助しないと親族の方が困る。韓国籍や日本籍に変えてしまったら，親族訪問に支障が出ると聞きます。

成：近頃は（日本からの）送金も禁止されたでしょう。サハリンの人にとっても親族訪問や援助という事情は同じです。そのほか，単に観光目的で行くとなれば，正直な話，わざわざ見に行きたいのは金鋼山くらいですね。金鋼山近くの三日浦というところも二回行きましたが，大して印象に残らない。その金鋼山でさえ，岩に金日成語録などを彫り込み景観が損なわれているし。近頃は観光訪問客もほとんどいなくなっています。

補足及びコメント

1970 年代にナホトカの北朝鮮総領事がサハリン州共産党第一書記のレオノフに，サハリン居住の朝鮮公民を一カ所の地域に集めて生活させること，どの職場や企業も朝鮮公民を先進労働者・技術者として表彰しないことを要請した。それに対しレオノフは，集団居住には正面から反対したが，表彰排除はその後しばらく実行された。[31] 朝鮮人がサハリン社会に溶け込み定着するのを食い止めようとしたのである。サハリン朝鮮人の北朝鮮離れ，韓国への帰還運動の高揚に危機感を募らせた北朝鮮の動きとして興味深い。前記の成點模氏の記憶する韓人自治体構想がこの北朝鮮の提案と関わっているかど

[31] 前掲の朴享柱（1990 年）。

うかは定かではない。ただ，自治体構想はサハリン朝鮮人社会に広く知られている話でもなく，成點模氏のような行政内部にいた一部人間の記憶に残っている程度のものらしい。

3．冷戦終結と永住帰国

3－1　ソウルオリンピック（1988 年）

金：先生は，ソウルオリンピック（1988 年）のときソウルを訪れ，新聞に連載記事を書いたと聞きました。それがサハリンの韓人社会に大きいインパクトを与えたとも聞いています。

成：ちょうどその頃から，個人でも日本経由で韓国を訪問することができるようになりました。韓国とロシア（当時はソ連）は国交がなかったから，人の往来も簡単ではありませんでした。私のソウル訪問は少々複雑な時代を背景にしています。当時，ロシアがソウルオリンピックに参加するかどうか国際的に注目されていましたが，ゴルバチョフさんの決断で参加することになりました。そのロシア選手団に，サハリンから私ともう一人，金という人が韓国語通訳として同行するようになったのです。

中山：その方の名前を教えて頂けますか。

成：その人はもうここにいないので……（？）の方へ移住しちゃって。お医者さんでしたが，ソウルにいく前は面識もなかった方なので。

　このように二人が韓国を見てサハリンに戻ったのです。私は当時ちょうど新聞社にいました。帰ってすぐ共産党のサハリン州委員会に呼び出され，ソウル訪問の感想を聞かされました。見て感じたことを正直に話したところ，新聞にそのまま書くなといわれました。韓国はまさに乞食の国で，食う物，着る物にも困っていて，住民が飢え死にしていると宣伝してきたから，急にすごく良い国といわれたら，当局も困るわけです。しかし自分はジャーナリストで，韓国をみてきた最初の人間なんだから，嘘を書くわけにはいかないと粘った。当時はすでにゴルバチョフさんの時代だったから，向こうもそこ

まで強く押しつける雰囲気ではなくなっていました。多分 15 回の連載だったと思いますが，正直な感想をそのまま書きました。それまでと正反対の話に，サハリンの韓人社会にどよめきが走りました。

それから，ハングル新聞の名前も変わりました。以前は「レニンの道」でしたが，1991 年から「新高麗新聞」になったのです。また新聞の配布システムも変わりました。以前は区域ごとの強制配布，つまり韓人，韓国系の人々にこの新聞購読が強制されていたのですが，ゴルバチョフ時代になってから自由になったのです。それが，先の連載記事を載せてから，新聞購読の申し込みが殺到しました。ほかにも，韓国との手紙やラジオが自由になり，韓国のいろんな事情や情報に接する機会が飛躍的に増えたのです。

中山：手紙とかがその頃から自由になったのですか。

成：そうです。手紙が自由になって，ラジオが自由になった。それまでは，韓国のラジオ放送を聞くのは禁止されていました。雑誌とか新聞ももちろん自由になりました。

中山：韓国宛に手紙を出しても届けてもらえなかったという話は。

成：そういう事件，時期がありました。1970 年代の話でしょう。1960 年代末から 1970 年代にかけて韓国の親戚宛に大勢が手紙を出したことがあります。ところが一つも届いていなかった。韓国宛の手紙をすべて新聞社，つまり「レニンの道」新聞社が横取りして処分してしまったと，いう噂が立ったこともあります。でも，新聞社にそんなことができるはずはありません。何千，何万通の手紙をのぞき読みするほど暇ではありませんから。実際は，手紙はすべて日本に送られた。手紙の宛先には韓国語か，漢字で韓国内住所が書いてある。でも，ロシア郵便局ではそれを読めない。英語も読めないほどだから，漢字やハングルは読めるはずがない。もちろん韓国宛だということは推測できたはずです。しかしすべてを取りあえず日本に送ってしまったわけです。その一部は日本から韓国に届けられました。それをやってくれたのが，樺太から帰還した朴魯学（バク・ノハク，박 노학）さんです。彼は力の限りを尽くしたが，経費や時間の制約もあり，全部を届けることはできなかった。結

局彼の手元に残ってしまったその一部を，最近，韓国外務省が預かることになったようです。日本に帰還した朴さんは，樺太帰還韓国人会という団体を結成していて，日本社会もそれを知っているから，手紙をすべて朴さんの所に集めたのでしょう。東京に行けば，朴さんの奥さん（堀江和子）が存命中だし，朴さんと一緒に樺太帰還韓国人会活動をやってきた李羲八（イ・ヒパル，이 희팔）氏もいます。手紙については，そちらで詳しい話が聞けると思います。

3－2　韓人団体の族生　オリンピック以降

金：ゴルバチョフさんが出てきて自由な雰囲気になってから，旧ソ連圏の韓人が高麗人協会とか，団体を作り始めましたね。サハリンではどういう動きがあったか教えて下さい。いろんな団体があるようですが。

成：一番早くできたのは，1989 年に発足した離散家族会です。正式名は，サハリン韓人離散家族会となります。その次の年に出たのがサハリン韓人会です。各地区にある韓人会はその支部となります。その後，サハリン韓人老人会も作られました。この 3 つが主な団体ですね。

金：終戦直後は韓人をまとめる団体はなかったのですか。

成：ありませんでした。後で北韓から人がきて，学習組が作られたけど。本格的に団体が出てきたのは 1990 年代です。1989 年に離散家族会が作られたのを皮切りに，韓人会，老人会，女性会など次々団体が結成されたのです。

金：それでは，終戦直後からソ連時代は韓人の団体結成はできなったのですか。

成：できませんでした。韓人の団体を作れば，ソ連時代には民族主義と見なされます。

金：先生の勤めた新聞社はいつ頃からですか。

成：新聞社は創刊から今年（2009 年）で 60 周年となります。私が入ったのは 1970 年でした。ソ連時代に，ハングル（韓国語）新聞が発行されていたのは，

カザフスタンとサハリンの二カ所だけでした。ハングル新聞を通じて共産主義を宣伝し，さらに韓人を再教育させるのが，ソ連共産党当局のねらいでした。再教育とは，日本時代の資本主義思想を一掃し，社会主義思想に変えることです。ハングル新聞だけではありません。朝鮮学校もその一環でしたから。朝鮮学校は 1947 年に設立が始まり，1964 年まで存続しました。当時は朝鮮劇場もありました。

金：朝鮮学校も韓人が自主的に設立したというより，ソ連当局によって作られたのですね。

成：その通りです。

金：旧ソ連圏の大陸の方では，高麗人協会などと名乗ることが多いようですが，サハリンでは韓人という言い方が一般的なんですか。

成：それはサハリンでも同じでした。韓人会も発足当時は高麗人会を名乗っていましたから。今の韓人会という名前に変わったのは，多分 1993 年頃ではないかと思います。同じ頃に，新聞名もレニンの道から新高麗新聞に変わったのです。新聞名はそれからも変更されずそのまま使われていますが。

中山：老人会が何年度に結成されたかは覚えていらっしゃいますか。

成：明確な記憶ではありませんが，それも 1990 年か，1991 年頃だったと思います。

金：韓人会，離散家族会，老人会それぞれ意見の違いとかはありませんか。

成：立場や意見の違いといえるほどのものはありません。やっていることもあまり変わりません。結成の経緯が団体それぞれ違うし，互いに功名を争う心理が働いたりして別々になっているにすぎません。各団体は，はじめの頃，つまり 1997 年頃までは全く問題なく協力しあっていました。ただ，その後は，団体代表者間の感情のもつれなどから多少の隔たりも見うけられます。

離散家族会は今はやるべき仕事があるのでよいでしょう。永住帰国問題，一時韓国訪問，離散家族探しなどです。そういうのをやっているうちは，互いに問題になることはない。集団永住帰国は今年，そして来年 3 月で一段落

します。韓国のアパートに空きが出たら永住帰国者を追加募集する可能性は残っていますが，大規模の永住帰国事業はそれでほぼ終了します。離散家族会の仕事ももうあまり残っておりません。離散家族会を韓人会に統合し，韓人会の離散家族部に再編したらどうかという意見も一部に出ています。
中山：団体が作られたときに，もともと北か南かなどで意見の違いがあったという話でしょうか。
成：違います。意見の違いってあまりないけど，やり方の細かい部分で違いがあるということです。北と南とは全然関係ありません。
中山：離散家族会と韓人会というのは，会員はかぶっていますか。
成：ええ，かぶっています。同じ人があちこちに入っています。

金：サハリン韓人の数や内訳など，数値データはどこが一番詳しいですか。
成：恐らく，出入国管理局でしょう。本当は，韓人会も，離散家族会も，そういう書類データをちゃんと管理せねばならないのですが，私も含め，書類関係はよく把握していないのが現状です。
金：それでは，韓人会や離散家族会のデータは，会員に対する独自の調査に基づくものなんですね。サハリン州の行政府からその辺の協力はありませんか。
成：州の行政府はその辺は関係しない。出入局管理局も政府機関なので，州政府も必要あればそこからデータを入手するはずです。
中山：出入局管理局というのは，パスポートを発行する所のことですか。
成：そうです。
金：パスポートで国籍はわかりますが，民族もわかるんですか。
成：そこは……。でも，韓国系の人なら，名字をみればわかります。
中山：住民登録のようなものはありますか。また誰が管理しますか。
成：戸籍はないけど住民登録はあります。それも出入局管理局が管理します。この機関の一部門がパスポート業務も担当します。
中山：住民登録には，民族区分とかは書いてないですか。

成：書いてありません。以前は書いてあったけど。いつ頃なくなったかな。３，４年前かな。正確には覚えていません。

補足及びコメント

今回の日本人会での聞き取りでは，1949 年頃に日本人妻の引き上げを阻止する目的で，朝鮮人の丹那さんがパスポート再交付の時に妻の民族をカレヤン（＝朝鮮人）に変更したという事例を聞いた。

出身国がロシア社会でどのようなイメージで見られているかは，そこに居住するコリアンのプライドにも強く関わる。ソウルオリンピックを契機に発展した祖国（＝出身国の意味）を発見したことは，帰郷への情熱を強めると共に，一層の北朝鮮離れと韓国ブームを促した。その影響は，例えば，団体名の変更に現れている。

ソ連内部のペレストロイカや韓ソ国交樹立（1990 年）を契機にソ連内のコリアンが高麗人団体を結成していくが，やがて韓人という名所への切り替えも進行したようだ。中央アジアの団体は今でも高麗人と名乗ることが多い。それに対しサハリン朝鮮人の団体はこぞって韓人に変更されている。

３－３　永住帰国の条件と選択をめぐる事情

成：先ほども話が出ましたが，永住帰国か残留かの選択の際，人それぞれ事情が違います。サハリンの韓人も生活水準はいろいろあります。生活の苦しい家庭なら，親の永住帰国がお金の面で子供に助けになることもある。一つは年金です。親の受給した年金をそのまま子供に譲りますから。もう一つは親の家です。子供にそれを譲るか，または賃貸に出して賃貸料を子供にとらせる，といった具合です。ここの第一世代の老人は年金を受給しています。しかし金額は十分ではなく，それだけで暮らすのはかなり厳しい。韓国に行けば生活は何とか保障されるから，ここで受給する年金を貯めて交通費にすれば，２年か３年に一度，子供や孫を見に戻ってくることも可能です。このように思いつつ，永住帰国を決心した方も少なくないでしょう。一方，残留

を決めた方もいます。こんな老いぼれになって，子供や孫と離れ2年も3年もあえないのは耐え難いと思う人たちです。貧しくても，余生はここで家族と一緒に送りたい。韓国の故郷には何度か訪問できればそれでよいという考えでしょう。

金：残留希望者の数はどのくらいですか。1千名にはならないでしょう。

成：ほぼ1千名近くいると思います。少なくとも800名以上にはなります。

金：帰国なさった方がすでに2千名だから。

成：今年の帰国者を含めれば，3千名にはなります。

金：最後に永住帰国事業に関して先生のご意見や感想を聞かせて下さい。

成：日本政府のお金で韓国の安山に約1,000名の入居できるアパートを建ててくれたのですが。私の考えですが，帰国対象を老夫婦だけに限定せず，子供一人とその家族をかならず一緒に行かせるべきではないかと思います。老夫婦だけでは，元気なうちはよいのですが，高齢なのでいずれ面倒見てくれる誰かが側に必要となります。子供とその家族を一家族でも付けてやるのが人道的ではないでしょうか。サハリンに日本人も300名ほど住んでいます。そのうち毎年，日本に帰国する人も出ますが，子供一人とその家族が同行できます。韓国が子供の同伴を認めないのは間違いです。

最近の500名入居アパートは，家は韓国側負担で建てて，日本は最低限の生活家具，サハリンの家族にあうための旅費を負担してくれています。これを最後に集団帰国事業は終わります。私はこれも問題があると思います。一世，その基準は1945年8月15日以前に生まれた人ですが，にもまだ800名から1,000名ほどが残っています。そのうち帰りたがる人がまた出てもおかしくありません。そういう人が出てきたら，いつでも帰国させるのが当たり前だと思います。

もう一つ，永住帰国した人は住宅や生活費をもらっていますが，残留している人には何も支援がありません。ここに60年も住んでいて，生活の根があまりにも深くまで下りてしまっています。老夫婦だけの帰国という形なら，

私たちはどうしても韓国に帰国する立場にはならないのです。同じ立場の人もたくさんいます。このような人たちには韓国も日本も何も支援がありません。それは間違いではないかと思います。韓国からくる国会議員や政府関係者の話ですと，我々はロシア国籍だから支援は難しいという。それなら，二重国籍を認めればよいのではないか。ロシアは二重国籍を認めています。例えばロシアのユダヤ人は二重国籍も多い。でも韓国ではそれを認める法律がないというんです。法律を作るのが，国会議員あなた達の仕事ではありませんかといってやりたいです。また二重国籍となれば，兵役をどうするかなどの問題もあるといいます。私の考えでは，希望者だけを認めればよいのではないと思いますが。主人が二重国籍だからって家族全員がそれに従う必要はありませんから。

3－4　ロシア化，韓国文化，ほかの韓人

金：家族の話に変わりますが。子供の頃は学校や社会で差別とか，そういうのがあればかなり敏感ですよね。お子さんを育てた親として，そういう問題に気をもんだ経験とかはありますか。

成：朝鮮学校があった時の話ですが，朝鮮学校の生徒とロシア学校の生徒の間に集団喧嘩が起きたことがあります。今は民族別学校がなく，朝鮮人であろうが，タタル人であろうが，ウクライナ人であろうが，地区別に同一の学校に入りますので，そのような問題はほとんど起きません。一昔前，国際結婚（正確に言えば民族間結婚）は変な目で見られていました。だが今では，国際結婚はどこの家庭でも珍しくありません。お嫁さんとか，お婿さんとか。今や民族が混ざっていない家族はほとんどありません。

中山：先生のどころもそうですか。お子さんとか，お孫さんの代に。

成：孫の嫁さんがロシア人です。同じ会社で働いていて一緒になったのです。子供はハーフですね。毎日家に来ますけど，とても可愛がっています。

中山：お子さんの世代にはまだなくて，お孫さんの世代に。

成：子供の世代にもかなりいます。我々の世代にはほとんどいませんでした

が。

中山：韓人のなかで国際結婚の比率はどのくらいですか。

成：データがありませんから。でも，約 10％ですかね。

中山：国際結婚をいやがる傾向は，韓人とロシア人とどちらが強いですか。

成：どちらかといえば，韓人の方がもっといやがる方です。ロシア人はその辺は案外冷静に考える人が多い。やはり多民族国家ですから。サハリンにも 130 民族が住んでいますので，純粋なロシア人はほとんどいないといっていいでしょう。ロシア人の方では気にしない。韓人の家族で気にする人がむしろ多いのです。

中山：さきほどハーフとおっしゃいましたけど，ロシア語でそれに当たる言葉がよく使われますか。

成：ミチスといいます。訳すと混血児という意味です。

中山：特に韓国人とロシア人の混血児を指す意味とかではなく，一般的な混血児のことを意味しますか。

成：そうです。ウクライナ人でも，タタル人との混血でも，同じ言葉でいいます。

金：サハリンにおいて，民族差別をめぐる状況は昔と今で大きく変わったと思いますか。

成：まったく変わりました。今では民族差別というのはほとんどなくなっています。今は社会が，それこそ自由経済になりましたので，お金さえあれば何でも出来るという感覚がむしろ強くなっています。昔は民族を見てね。特に会社内の昇進などいろんな面で，韓国･朝鮮人は難しいことがありました。

　韓国・朝鮮人は，その数が少ない地域に行けば，意外とよいのです。例えば，以前はウラジオストクやハバロフスク地域に韓国・朝鮮の人は少なかったのですが，そういう所に移住して成功した方がたくさんいます。そういう所では代議員（地方議会の議員）になるのも可能です。（サハリンのような）たくさんいる所はむしろ難しかった。もちろん今は昔ほど難しくはなくなっています。現在，サハリン州議会には議員 27 名のうち 2 名が韓国系です。今

は亡くなりましたが，ロシア国会の下院にも一人いました。イルクツク地区で当選した方でした。

中山：それでは，後の世代は時間が立てばロシア社会に，何というか，同化という言葉はよくないかも知れませんが，同化していくと。先生はそう見ておられるのですか。ロシア人として生きることになると。

成：そうです。第一世代はほとんどなくなりましたから，今の年寄りは実は二世です。今は四世もかなりいますから。三世，四世になりますと，考え方はロシア人と全く変わりません。顔だけが東洋人であって中身はまったくロシア人ですよ。

金：そのような傾向について，先生としては何か憂慮される所はありますか。

成：これはもう仕方のないこと，自然のなりゆきです。そのように考えています。

中山：それでは，ロシア社会への期待というか，頑張ればいろいろできると思っておられるわけですね。

成：そうです。頭が良くて，お金をたくさん儲ければ(笑い)，出世に問題はないということです。

一つ問題は，今は大学に行くのにお金がかかるということです。頭は良くても家にお金がなくて大学に行けない子供が，大勢ではないが，一部います。ただ，高校成績が優秀で大学入試で好成績を上げれば国が無償で教育費を援助しますので，その辺も道がないわけではない。大学の数も増えてきたので，子供を大学に行かせる可能性は昔よりずっと大きくなったのです。社会主義時代は本当に国の必要な数だけを選んで大学教育を与えたのですが，今は大勢が大学に行きます。勉強したい意欲さえあれば，大学に行くのは難しくない時代になりました。

金：サハリンとは直接関係ないかも知れませんが。旧ソ連圏の中央アジアにも韓人が多く住んでいますね。スターリン時代に強制移住させられた方やその子孫です。ソ連邦崩壊後，カザフスタンなどが独立国となったことで，そ

こに住む韓人はむしろたいへんな目に遭っています。公用語がロシア語からカザフ語に変わり，カザフ語を知らないという理由で韓人がロシア人と一緒に排斥され，役職から追放されているようです。そこで，中央アジアから沿海地域に移住する韓人も増えています。その辺と関わって，サハリンでも何か影響がありますか。

成：別にサハリンでは直接影響はありませんが。沿海州に移住する方々はやはり昔その辺に住んだことのある方々の子孫ですね。最初は移住者の住宅問題が深刻でたいへん苦労されたようですけど，その問題も段々解決に向かっているようです。多くは農業に従事するようで，別に大きな問題は聞きません。

中山：ロシア政府が支援を約束したんですよね。

成：はい，その支援が徐々に実行されていて，問題があるという話を最近はあまり聞かなくなりました。はじめて来た時がそれこそ大変でした。住宅がなくて，外で小屋を建てて住む人が多いという話でしたけど。

金：経済的状況からして，韓人の平均的地位はほかのロシア人と比べどの程度なのですか。難しい質問ですが，印象でもよいので。

成：韓人はサハリンでほかと比べ特に悪い生活をしているわけではない。中級生活が多いと思います。韓国系は勤勉だというのもあるので。特に困っている人は，これは韓国系だけでなくロシア人一般のことですが，年金受給者です。金額が少ないから，年金もらって公共施設の料金を払ってしまえば，ほんの僅かな，それこそ，パンとスープしか食べられないような金額しか残りません。ただ，働く世代の生活はおおむね中級といえます。

中山：韓人会のなかで金持ちと貧乏人が別れているわけでもなくて。

成：いいえ，分かれています。もちろん分かれています。すごく金持ちもいます。そんなに多くはいませんけど，立派な国際級ホテルを持っている韓国系の人が4，5名はいます。ほかの仕事をやっているすごい金持ちもいます。不動産屋とか。

中山：ほかの方は中間レベルが多いですか。

成：そうです。大半は中級です。

金：ロシア人がやりたがらない仕事，きつい，きたない，危険な仕事に韓人が多く従事する，ということはありませんか。

成：それはありません。ここの朝鮮人はロシア人とレベルがほぼ変わりません。そういう仕事に就く人の多くは，キルギスタン，ウズベキスタン，カザフスタンなどから来ています。

中山：道で中東系の顔をよくみかけますが，そういう方々ですか。

成：そうです。道路工事や農村の仕事，建設の仕事などで，重労働が多いですが。そういう仕事を求めてとんとん押しかけてくるので，今や仕事が足りなくて困っているんです。また中国人，それから北朝鮮の人もいます。

中山：市場，バザールで中国人市場がありますね。そこは行商というか。小規模で物をもって移動する商売に見えますが。ここに定住する中国人が多いですか。

成：ここにくるビザが，ビジネスビザと観光ビザの二種類があって，観光ビザできたら商売はできないですが，ビジネスビザなら，正確にはわかりませんが１，２年は定住して仕事ができます。また更新もできるらしいです。観光ビザで来た人でも商売をやって追い出されることがよくあります。

中山：それでは，やはり不安定ですね。不動産とかは買えませんね。

成：不動産とかは，日本人でも買う人いますけど，住めなくなったらまた売らないといけなくなりますね。

中山：北朝鮮からくる方とはほとんど接触しないですか。

成：北朝鮮からの方（ここでいう北朝鮮労働者は最近，北朝鮮から送られてきた労働者である。監督か監視役をつけて，組をなして道路工事などをやっているのをユジノ市内を歩くときよく見かけた。）は，ほかの人との接触は一切禁じられています。こちらのテレビを見ることもできない。ラジオや新聞ももちろんだめです。ほかにも中国からきた韓人がいるでしょう。その人たちは全く自由です。

中山：おなじ韓人同士だから，ここにきて一緒にビジネスしたりもしますか。

成：そうです。中国人のバザールが二カ所あります。一カ所はほんとうの中国人たちがやっているバザールです。もう一カ所，やや小さい方が中国に住む韓人のバザールです。
中山：線路の側の方を行ったんですけど，
成：二つとも線路の側にあり，なかの道をはさんで分かれています。レニン通りに近い方が韓人のバザールです。
中山：中国の東北からくるわけですね。
成：そうです。
金：ベトナム人は来ているんですか。
成：来ているけど少ないです。
中山：大学寮近くの店で買い物していたら，店員さんにベトナム人かと聞かれました。彼女はお母さんが日本人でお父さんが韓国人だそうです。
成：以前はインドネシア，フィリピンなどから人が一杯きていました。石油開発関連の仕事できていたので，終わってから皆帰ってしまいました。
金：その人たちは町に住むことはなかったのですか。
成：そうです。皆，建設現場近くに合宿していて，土日になれば，バザールに買い物にきたりしていました。
中山：北朝鮮から建設仕事などできて，終わっても残留する人がいると聞きましたが。
成：北朝鮮からきて，法律を破って残留する人は，いたとしても極めて少ないと思います。彼らは集団生活ですから規則は厳格に守っています。中国人の場合はめちゃめちゃですね。法律違反（不法滞在）は中国人に多いです。
中山：中国人の不法滞在が多いのですね。
成：不法滞在で捕まるのはほとんど中国人です。
中山：北朝鮮からの人は民間に部屋を借りるのではなく，集団で生活しているということですね。
成：集団生活です。部屋を借りても集団で借りてやっています。町を歩くときも一人で歩くことを見ません。一人で歩ける人間は幹部，偉い人なんです。

中山：その人たちはロシア語ができないでしょう。
成：できません。それでも，一人行動は禁じられているのです。
金：テレビの話が出たので質問ですが，韓国のテレビはここに入っていますか。
成：入っています。KBS，KBS ワールド，日本でやっている KN テレビ，YSTN（ニュース専門チャンネル），それからアリランも入っています。アリランはほとんど英語放送ですが。
中山：衛星放送なんですか。どうやって視聴できますか。
成：ケーブルテレビです。こちらのケーブルテレビ会社が向こうと契約し，配信します。
中山：料金は安いんですか。
成：こちらのケーブルテレビはチャンネルが 50，60 以上もあります。私は 3 つ， 4 つほどしか見ませんが。全部あわせて毎月 250 ルーブルです。その中に韓国のテレビも入っています。
中山：高くありませんね。
成：250 ルーブルだから，10 ドルなるかならないかですね。
中山：ちょっとしたランチ代ですね。

3 ― 5　サハリンの産業

金：話は変わりますが，サハリンの産業についての質問です。その辺の情報に接しやすい位置におられたと思いますので。樺太時代に，日本人によって作られた炭坑，製紙工場，鉄道は，その後，大きい設備更新があったのでしょうか。
成：いいえ，新しい現代的機械への取替はありませんでした。日本時代の機械をそのまま使って，老朽化した部品を取り替える程度だったと思う。そういうのが長くつづいたので，製紙工場は後に問題になりました。しかしロシア製の現代的設備がなく，ドイツなど外国産を買う金もないので，ほかに手がなかったと思います。ついにその製紙工場も止まってしまった。

鉄道も日本人の作ったものを永らく使ってきましたが，ようやく去年か，一昨年に，直し工事が始まっています。大陸鉄道にあわせ，軌道を広げる工事です。今では，大陸を走ってきた列車が船に乗ってホルムスクに入れば，車輪幅の狭い台車に取り替えて，サハリンの鉄道幅に合わせます。

金：今もやっていますか。

成：工事完了はまだまだです。毎年少しずつ進んでいるようです。

炭坑も変わりません。新しく開発した炭坑はなく，日本時代のものを掘り下げつづけてきた。今では深すぎて，現在の機械では対応し切れないようです。近年，中国や日本から状況を見に来ているようです。中国に投資意欲はあるようですが，まだ明確な結論は発表されていません。

金：それでは，ソ連時代になってからは，大した産業投資はなかったといえますね。

成：まあ，そういえます。あちこちで少しずつ取り替えるくらいでした。まったく新しく建設したのは住宅だけです。小さい工場なら新しいのもありますが。例えば，食料品工場とか，牛乳工場，家具工場など。しかし大規模投資っていえるのは，住宅だけですね。